

若手経営者が未来を討論

倉庫業青年経営者協議会

「10年後」



次世代のキーワードは

10年後の物流業界をどのように予測する。

曾根 洵汰(とうた) もあり、全体の企業数は減るだろう。その中で倉庫、トラックの垣根を越えた連合軍が同じシステムを使い、チームをつくれるかが鍵になる。当社は醍醐倉庫、松島聡さんが社長を務めるシステム会社のシーオスと協業し、AI(人工知能)やロボットをつなげる次世代のクラウド型のWMS(倉庫管理システム)の開発に取り組んでいる。

醍醐 業務を標準化した上でシステムをつくり、それを基盤に倉庫運営の開発に取り組んでいる。従来は顧客要望を満たすことを最優先に仕事をしてきたが、必ずしも生産性向上、利益に結びつかなかった。人材不足でもサービスを持続するには、AI、ロボットが不可欠。次世代型WMSを通じ業務をデジタル化し

た上で、新技術を活用する。太宰 当社も同業他社と同じWMSを使っているが、横の連携が図れていない。守秘部分はあっても、個社単位ではなく多くの企業と連携できれば、顧客も一社に任せたいような効果が見込める。

曾根 将来的には全国規模のネットワークをつくり、同じシステムを使うことで大手と勝負したい。一方で、経営を刷新する気持ちはない。コストだけかかってしまう。開

発中のシステム導入により、これまでの受け身から能動的な倉庫会社への転換を図りたい。

サービスが二極化

皆で手をつなぐ集合体がポイント。だがそれだけでビジネスはうまくいかない。醍醐 もしくは違う仕事をやる異業種からの参入が増えている。通販、システム会社などが代表例だろう。倉庫会社にとっては当たり前だが、新規参入企業にとっては考えつかない仕事もあるし、逆もある。サービス内容が大

きく変わる流れが加速しており、どう手を打つかが課題として上がってきている。

太宰 当社は7・8ステップのクリフトを使って、仙台港の港湾背後地で重量物荷役も展開している。この業務は機械を持っていないとできない、なかなかなくなるのでは考えられない。

池田 技術革新により省力化が進む反面、これからは人材が必要な業務は必ずある。高度な人材だけでなく、(一定)の技能を持った、それ以外の人材の雇用も生み出さなければならぬ。

太宰 東北では10年後、農産品物流が変わっていくだろう。FTA(自由貿易協定)などの条約締結により欧州からの食料が増え、港湾の冷凍冷蔵物流の比率が高まっていく。一方でコメの保管をはじめ、(国内)農産品物流は減少する可能性がある。地方では農産品に代わる仕事を見つける必要があり、厳しい状況が予想される。

新技術の活用進める 醍醐氏



醍醐 正明氏

たいご・まさあき 昭和40年10月23日生まれ、52歳。東京都出身。一橋大法卒。アンダーセンコンサルティング(現・アクセンチュア)を経て、平成6年醍醐倉庫入社、同年取締役、12年社長。第19代倉庫協

次の10年へ何が必要

—— 将来に向けては、どのような取り組みが必要になるか。

曾根 国を挙げて「スロー物流」を主導してほしい。不急のモノは当日頼むのではなく、計画的に購入することを推奨してほしい。倉庫にとって出庫までのリードタイムは長い方がいい。もちろんスピードの追求も大事だが、スロー物流も進めないと、10年後の物流は成り立たない。

太宰 地方でも同様の意見

—— スロー物流を前提にインフラを構築することが重要になる。

曾根 国土交通省だけでなく関係省庁も加わり啓発しないといけない。人材の多様化を目指す上で、スロー物流なら年配者もビックリができる。スピード追求の生産性勝



曾根 和光氏

そね・かずみつ 昭和43年2月11日生まれ、50歳。東京都出身。慶大経卒。丸紅を経て、平成5年ダイワコーポレーション入社、13年専務、23年社長。第20代倉庫協

め、物流が注目されている。チャンスは物にしなければならぬ。

太宰 特にラストワンマイルの課題が世間の関心を集

企業価値を一層向上

議論を踏まえた10年後の企業像は。

池田 この10年が今後を決める。ゴールはまだ見えていないが、間もなく100周年

「スロー物流」の推奨を 曾根氏

議論を踏まえた10年後の企業像は。

を進める。倉庫の建て替えと人材を中心に将来をどうするかを決めていく。業界としては大きく変わらないうえ、技術は進歩しても変えてはいけないものもある。そこを見極めていく。

太宰 当社は平成32年で120周年を迎えるが、それまでに会社内部、施設をどう整えるかが大事になる。同時に100周年の在り方も考え、次の世代にバトンタッチする下地づくりを進める。震災からの復旧は終わったが、本来開発予定だった遊休地があり、引き続き整備を図りたい。また仲間たちと協力しながら、仙台地倉庫協同組合が次世代を切り開くための準備も進めていく。

醍醐 次世代型WMSの導入に向け、まずは人材育成を

を進める。基盤を整えて実力を蓄える。当社が2年前に開始した「売る倉庫」もようやく売りの上げが伸びてきた。他の倉庫会社ややっていないサービスを通じて、顧客にメリットを享受してもらって、他に代えがたい倉庫会社にしていく。

曾根 クラウド型WMSを使い、全国の仲間と協業軍団になることが描く姿。経営理念の「人とモノの真ん中」を進めるため、新聞配達店の活用など、人とモノをつなぐ仕組みを強くする。正社員全員が管理職になる集団をつくり上げることも目標。お金持ちが当社グループを買いたくなるよう、見える価値、見えない価値の両方を上げていく。

運ぶ、だけじゃない。ヤマトのビジネスサポート。

Advertisement for Yamato Business Support. It features a person thinking, a laptop displaying a dashboard, and various service icons. Text includes: 'お見積りですね、今出先なので事務所に戻ってから...', '送り状の手書きってホントめんどくさい!', '見積書、納品書、請求書、...', '掛売りができたら、もっと新規取引先を増やせるのに...', '宅急便の請求書待ちで作業が進まない...', '「お荷物の到着は...えーっと...」宅配便の送り状控えがなかなか出てこない!', 'ネット通販を始めたけれど、一体何からどうすれば?', '月末の請求書、件数が多い上に送付形式もバラバラで困る...', '登録無料', '登録事業者数 90万以上', 'ビジネスシーンの様々なお悩みに、30以上のソリューション。', '企業の様々な課題解決を支援するWEBサービス', 'ヤマト ビジネス メンバーズ', '帳票作成、通販運営、出荷管理などビジネスシーンの様々なニーズにお応えする30以上のサービスをご利用いただけます。', 'ヤマトビジネスメンバーズについて', '検索', 'http://www.kuronekoyamato.co.jp/ytc/business/members/', 'ヤマトビジネスメンバーズサポートセンター', '0120-23-8010', '平日8:00~20:00 土日祝9:00~18:00'.

倉庫・3PL特集

若手経営者が未来を討論

どう見据える

経営環境が大きく変化しつつある倉庫業界。他産業の参入による競争激化に加え、この数年は労働力不足の深刻化、新技術の登場など新たな動きも見られる。将来を担う若手経営者はこれからをどのように見据えているのか。倉庫業青年経営者協議会の現会長、歴代会長に「10年後」をテーマに討論してもらった。(文責・小林 孝博)

激動の時代を振り返る

10年後を考えると、現在と10年前を比較するとどうなるか。

曾根 10年前と比較すると所管面積は約2倍、売上高は約4倍。(当時は)政府が規制緩和を進め、いろいろな人が資金を投じて倉庫を造る環境が整備された中、いち早く特定目的会社の設立や、銀行以外の資本募集、他業種との関係構築に取り組んだ。国内外の情勢は読み通り来ていた。

醍醐 この10年間は目の前のことを必死にこなしてきた。一方で、試行錯誤をする中で見えてきたもの、出会いもあった。これから先がどう変化するかは分からないが、今後は10年後を見据え取り組むを進める。

池田 会社としては矢張り10年。これまでいろいろなことや過ぎて、整理することには時間がかかった。今後10年間はこれから考えたい状態。(2年後には)東京オ



池田 雅一氏

いけだ・まさひろ 昭和45年1月21日生まれ、48歳。東京都出身。成城大経営学。流通倉庫を経て、平成14年東京倉庫運輸社、18年取締役、23年専務、27年社長。第22代倉青協会長。

事業整理で苦しい時も池田氏

リンピックも開催される。本社周辺では開発が進んでおり、ようやくこれからどうするかを考へるところに至っている。

EC普及で弊害も

——EC(電子商取引)の発展をはじめ、物流が劇的に変化した時代だった。この変

化を予測できた。曾根 前半5年間は苦労が多かったが、その分社員は自信を付けた。この10年間で拠点戦略と同時に注力したのが人材育成。将来的な労働力不足を見据え、好不況に関係なく毎年新卒採用を継続してきた。近年は沖縄での人材獲得や「和く和くプロジェクト」という若手社員が中心の採用

活動を展開。細かい努力を重ね、人を採ることも注力してきた。大幸 パート社員がどの地域でも採れないのはECの影響。倉庫で弊害を行う人材が集められないのは、ECの進展による副産物としての弊害だろう。

醍醐 作業員の単価も急騰している。最低時給も上がっており、来年には東京で1000円を超えそうな状況にある。曾根 大手通販も顧客となっており、敵対はしてない。半面、配送面で顧客を守るため、昨年12月、新聞配達店を使った納品会社「ラストワンマイルソリューション」に出資し役員に就任した。斜陽産業の持つ既存インフラで「人・モノ・カネ」をうまく機能させることが重要になる。まずは新聞配達店の配送網を活用し宅配の仕組みをつくる。

課題とどう向き合う

——今後10年を討論するに当たり、まずは現在の課題を見ていく。池田社長から「失われた10年」という発言があったが、その真意は、

池田 いろいろな事業に手を出し、それをクロスするのには時間がかかった。当社は立地的に五輪ゾーンとはさまにあり、倉庫周辺も物流だけをやると環境ではなくなっている。既存倉庫は築50年を迎え、五輪後の街づくり(品川・田町間の)新駅開発も見ながら建て替えを検討している。人材では若手が少なく、



岡 卓也氏

おか・たくや 昭和48年3月15日生まれ、45歳。大阪府出身。法大法学。物流企業、メーカー、卸、小売、システムベンダーと幅広い業種で、改修コンサルティングに従事。ロジスティクスを単なる受け身機能としてではなく、サービスの要として企業活動の最重要課題と捉え、活動している。

座談会

【討論者(歴代会長順)】
醍醐 正明 醍醐倉庫社長
曾根 和光 ダイワコーポレーション社長
大幸 栄一 白石倉庫社長
池田 雅一 東京倉庫運輸社長

【司会者】岡 卓也 イー・ピー・ソリューションズマネージング・コンサルタント



大幸 栄一氏

おさの・えいichi 昭和42年3月6日生まれ、51歳。宮城県出身。明大経営学。三菱倉庫を経て、平成8年白石倉庫入社、9年専務、19年代表取締役専務、22年社長。第21代倉青協会長。

拠点立地、再考も必要 大幸氏

——具体的にどのようなくとをされているのか。醍醐 毎年秋にハザードを開き、荷主の売れななくなった商品を安く提供している。多くの人が喜んでもらえるよ

具体的には、地域共生を取り組みとされている。大幸 ほかの都市と同じく、宮城でも(都市計画区域

う、地元の和太鼓集団による演奏や当地グルメの販売なども実施。下町ホブスターの一部業務も手掛けており、それを展示するイベントも行っている。地域貢献は父の代から続けてきたことで、地域に溶け込むことができています。顧客も安心して当社に仕事を任せられる。

——宮城での環境変化はどうか。大幸 ほかの都市と同じく、宮城でも(都市計画区域

地域共生で取り組み

具体的には、地域共生を取り組みとされている。

宮城での環境変化はどうか。

先代社員の再雇用を含めて考えなければならぬ。——倉庫の立地では近隣住民との付き合い方も重要になっている。

池田 本社倉庫は準工業地域に立地し、周辺には町工場が多かったが、いまはピーク時の3分の1まで減少している。周辺では高層住宅の建設が進んでおり、地域との共生、地域への貢献などとして倉庫業を続けることは難しい。

「超精密とメカトロメーション」の西部電機が提唱するマテハンシステムの新コンセプト

ロボティクス・マテハン®

~Robotics Material Handling System~

西部電機は、これまで培ってきた「メカトロメーション技術」に、先進の「ロボット技術」「情報通信技術」を組み込み、生産性・操作性・協調性を向上させたマテリアルハンドリングシステムをご提案してまいります。

コンテナ積み/降ろしロボットシステム
安全かつ省スペースで自動積付

電動アシスト台車
台車を使った運搬・仕分け作業の軽労化を実現

マルチソーティングRIO
段ボールやオリコン等、様々な荷姿に対応し、省スペースかつ高速搬送を実現

多品種バラタイズシステム
物流現場の自動化を大きく変えるティーチングレスのバラタイズシステム

マテハン(物流機器)メーカーだからできる、マテハンメーカーならではのロボットシステムソリューション

西部電機株式会社 <http://www.seibudenki.co.jp>

マテハン事業部 営業部
東京 Tel.03-5628-0012 名古屋 Tel.052-800-5051
大阪 Tel.06-4796-6711 九州 Tel.092-941-1530

物流不動産とテクノロジー

JA-LPA 第12回セミナー

主催
日本物流不動産評価機構
日本物流不動産評価機構推進協議会

後援
DBJ 株式会社日本政策投資銀行

平成30年10月19日(金) 日本通運本社ビル2階大会議室
13:00~17:00 予定 TEL:03-3457-9031(早崎/鳴原)